

【記念シンポジウム】 **湘南発！若手が実践する新しい介護のカタチ。**

**小規模
多機能**

と 自宅で最期まで暮らす地域づくり

1/16 (金)

時間：午前9時半開演 ～ 11 時半終了

場所：市民会館大ホール **参加無料**

(参加申し込みは裏面)

I 部 湘南の小規模多機能型居宅介護施設の実践例

■ 小規模多機能ってな～に？ 鈴木真氏

●「おたがいさん」 加藤忠相氏 ●「えんグループ」 根倉忍氏



かとうただすけ／(株)あおいけあ代表取締役。大学卒業後、特養で仕事するも劣悪な環境に悩み退職。借金して25歳で会社を設立しグループホームとデイサービスを始める。2012年小規模「おたがいさん」が第一回かながわ福祉サービス大賞を受賞。市の小規模事業所連絡会代表、認知症サポーター講座講師などを努めながら全国に講演で飛び回りTVの特集、新聞雑誌の取材多数。亀井野の施設は地域の子ども、住民に開かれにぎわう交流拠点。40歳



ねぐらしのぶ／湘南乃えんホールディングス(株)。これまで暮らしてきた地域を離れずに「本人がどうしたいか」を基に自立支援をデザインするスペシャリスト。小規模の青写真を形にしてい。39歳



すずきまこと／まこじろう福祉事務所。介護福祉士。病院や「おたがいさん」でも勤務。初任者研修・実務者研修などで講師を務め、地域イベントを事務局として仕切ってみんなを活かす仕事人。35歳

II 部 パネルディスカッション

みんなで
話そう！

“小規模多機能を活かした地域づくり”



コーディネーター
大熊由紀子さん

小規模多機能の良さは、色んな人たちと連携して活かされ、発展していくことです。介護スタッフはもちろん、リハビリ職、看護師、医師、農家、八百屋、食堂、喫茶店、酒屋、電気屋、美容師、市職員、学生、税理士、弁護士、議員 etc. そして、町内会のご近所さんや子どもたち！多世代多職種の絆が小規模の可能性を広げます。登壇した多彩な仲間と会場のみなさんの参加で、行政だけにお任せにしない！明日からの地域づくりに向けて話し合いましょう！



小規模多機能型居宅介護施設って！？

**可能な限り在宅へ！「訪問」「通い」「宿泊」
を組合わせて24時間365日対応**

例) 登録定員 25人通いサービス 15人/日の施設

◆建設費：数百～数千万円(集合住宅も可能)(藤沢市の場合)

◆税金投入：市から約3千万円

⇔ 特別養護老人ホーム(特養)を一つ作る
建設費補助金で30施設作れて
雇用も拡大する

◆許認可：市が認可し質もチェックできる

⇔ 特養は県がサービスの認可、指導監査を行う

住み慣れた地域で家族と連携し、
利用者の精神的安定を保ちながら、
途切れないサービスと同じ
スタッフで提供できる。

**認知症に
とくに有効！**



2015年1月16日(金) 17日(土)
 主催：全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会
 会場：藤沢市市民会館大ホール 他
 参加費：会員 5000 円 非会員 12000 円
 自治体 5000 円

※裏面のプレ企画終了後に全国大会を行います、
 プレ企画については参加費無料です。



2025年には団塊の世代がピークを迎え、全人口の4人に1人が75歳以上となり、そのうち認知症は約3割存在するようになると言われています。また今後は、これまでの身体的、管理的な介護ではなく、高齢者にやさしい、尊厳のある生活を送ることが出来る自立支援が求められています。

地域を作る『地域密着型サービス』**小規模多機能型居宅介護施設**をご存知ですか？

市町村が施設数やサービス内容などの質に責任を持つ地域密着型サービスの一つで、可能な限り住み慣れた我が家で暮らすために、「訪問」「通い」「宿泊」の3つのサービスを一つの施設で提供し、しかもヶ月定額料金で受けることが出来る定員25人の施設です。

小規模多機能型居宅介護施設は、住み慣れた地域で家族と連携し利用者の精神的安定を保ちながら、途切れないサービスと同じスタッフで提供できるので、認知症の介護にも大変有効であると言われています。

厚生労働省も全国的にこの施設をこれまでの8倍設置する方針を示していますが、藤沢市においては施設数を増やすとともに、地域コミュニティの拠点となるように、他の介護・医療サービスや地域のボランティア活動、町内会などとも連携して、一緒に地域づくりに参加していきたいと考えています。

まずは、サービス内容を知っていただき、皆さんと一緒に地域づくりをはじめるために、全国大会を機に「記念シンポジウム」を企画いたしました。

お問い合わせの上、ご参加下さい。

藤沢市小規模多機能事業所連絡会

【実践例・特別編】 理学療法士として小規模多機能施設を運営する菅原健介氏（藤沢市小規模事業所連絡会副代表）による実践では、生活の中でのリハビリを通じた機能回復が進み、より在宅での安心した生活、自立支援に繋がっています。



86歳の安田さんも骨粗しょう症で病院から二度と歩けないと言われてながら、宝塚観劇を夢見て、かつて親しんだプールでならと諦めずに歩行訓練。家族も驚く回復で一年後には台所に立ち、宝塚行きも叶える！

年齢	主な疾患	介護度前	介護度後
50代	脳卒中	5	4
60代	脳卒中	5	2
70代	脳卒中	5	2
80代	リウマチ	5	3
80代	パーキンソン	4	4※
80代	認知症	3	1
80代	認知症	3	2
80代	圧迫骨折	3	2
90代	脳卒中	3	支援2
40代	脳卒中	2	3
70代	パーキンソン	1	1※
80代	認知症	1	1※
70代	脳卒中	1	1※
80代	認知症	1	1※

菅原氏の事業所では、利用者の介護度で年間約1千万円削減。リハビリ専門職をもっと活かせば、本人の自立支援に留まらず、保険料上昇を抑え、その財源を次世代の子どもたちのために回すことも可能。

※以下は、裏面の記念シンポジウム「自宅で最期まで暮らす地域づくり」参加申込みです。

～参加希望します～ (FAXまたは取扱い先にメール等でお申込み下さい。)

お名前

ご住所 〒

ご連絡先

所属等

ひとこと

主催：藤沢市小規模事業所連絡会
 共催：全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会
 後援：藤沢市
 F A X : 0463-30-6163 (湘央ケアホームえん)

▼問合せ先：取扱い事業者／個人